地域の健康資源（地域のつながり）と健康長寿のデータ分析結果（JAGES調査プラス）：地域の課題と強みの見える化

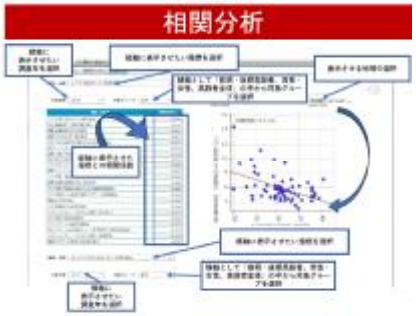
《概要》

①地域の健康課題・健康資源に関する「強み」と「課題」の評価に、見える化ツールを活用したもの。全国比較した相対的な順位や、地域内での課題を地図上で「見える化」し、「地域診断資料」として、参加市町村へ返却した。全国比較では、同規模や同高齢化率の他市町村と比較することで、相対的な強みや課題を実感できる効果がみられた。加えて、市町村内で、小地域別の課題や強みを検討した、地域診断結果をを共有することで、重点地区や若返り事業のモデル地区の選定等が行いやすくなると考えられる。地域の課題を、自分にとって身近な隣の小地域と比較できることで、地域住民や複数の専門職で課題を共有したり、当事者意識をもってプログラムに参加しやすくなる効果も期待される。見える化による地域診断資料は、ワークショップやグループワーク等開催し、小地域で活用することで、モデル事業実施のPDCAのサイクルを回してプログラム効果の向上が期待できる。

地域診断シート①
（全国の中での相対的位置）

地域診断シート②
（地区の強み・弱みをランキング）

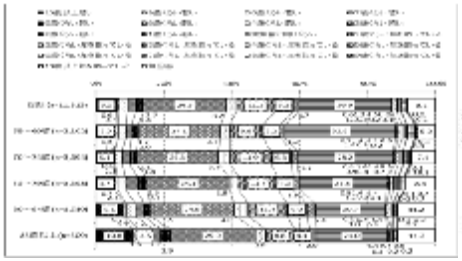
相関分析



②大阪府市町村内での比較に加えて、JAGESプロジェクトに参画して調査することで、全国40市町村の約20万人の高齢者データと比較し、大阪府の参考データとして、地域の健康資源と、健康長寿に関連する要因分析を行った。《結果一部抜粋：高齢者の健康・幸福・生活習慣の関連性の検討》

・「暦年齢」と「年齢の実感」の乖離について、年代が上がるほど、10歳以上若く感じる人、5歳以上若く感じる人の割合が高くなり、「実年齢と同じ位の年齢」と感じる人が少なくなる傾向がみられた。

・全国・大阪において共に、幸福感が高い高齢者の特徴として、主観的健康感の良い者・歯の数20本以上の者、夫婦2人暮らしor 2世帯暮らし、年収の高い者、教育歴の長い者、前期高齢者に比べて、85歳以上高齢者、毎日笑う者、歩行時間90分以上、ＩＡＤＬの高い者、健診受診者、ボランティア等の組織参加が多い者、1か月間に会う知人・友人の数が多い者、人と食事をする機会がある者、ボランティア活動を定期的にしている者、趣味あり、地域への愛着あり、地域の人を信頼できる、相談相手が多い、情緒的サポート、手段的サポートを受けている者で、幸福感が高い傾向がみられた。一方、高血圧、認知症等の有病、介護の必要がある者、喫煙者、配偶者との離別・死別者、生活保護の受給者等で幸福感が低い傾向がみられた。健康寿命、幸福寿命の延伸に関連する指標であり、今後の介入指標の候補になると考えられる。



※参考：日本老年学的評価研究（JAGES）HP　https://www.jages.net/jichitai/survey/